



広報

イキシア

2019年5月

80号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっとな心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

『働き方改革』

理事長 寺田 一郎

新年度が始まりました。新元号が世間の関心を集めています。令和元年、オリンピック・パラリンピックの前年でもあります。報道は大騒ぎですが私たちの職場にはどれもあまり影響はないように思われます。時代の流れが変わる訳でもありません。

新元号はともかく、三月にはちよつと気になる報道がありました。

知的障害のある十五歳の少年が入所施設から抜け出して死亡した事故で両親が施設を運営する社会福祉法人に約一億一四〇〇万円の賠償を求めた事件の判決が出ました。東京地裁判決は少年の障害を考慮しつつも稼働能力の可能性を基に逸失利益を認め施設側に約五二〇〇万円の賠償を命じました。

また、長野県内の特別養護老人ホームで女性入所者（当時八十五歳）がドーナツをのどに詰まらせて窒息し、約一か月後に死亡した事件で、食事の介助をしていた准看護師が業務上過失致死罪に問われていた事件で、長野地裁は罰

金二十万円の有罪判決を言い渡しました。食べ物に詰り込む傾向があったことを確認していなかったと過失を認定したということです。

この裁判では介護の現場に過度の責任を負わせるのは酷だとして、無罪を求める約四十四万五千人の署名が提出されました。介護現場が委縮することや、人材が集まらなくなるなどが心配されています。弁護士側は即日控訴しましたので、今後も注目していきたいと思えます。

これらの事件は福祉現場を取り巻く今日の状況の一つですが、さらに事業運営に大きな影響を与えそうなものが「働き方改革」です。二〇一九年度の事業計画における課題でもあります。

働き方改革と事業計画

ワーカーホームが実施している事業は、精神障害を中心とする障害福祉サービスから児童福祉法、医療法、介護保険法等に拠る活動まで多岐に亘り四拠点で十六種の事業に取り組んでいます。今年度は、実に珍しく新規

の施設整備がありませんのでそれぞれの事業の基盤を強化することを基本として次の柱を立てました。

①事業運営

四月にグループホーム「ぶらり」(茂原市)を開業し、生活訓練(自立訓練、大網白里市)事業は三月末をもって廃止しました。新規事業所の立上げがない今年度は既存事業所の運営強化に取り組みます。

②精神障害を中心とする事業展開

「精神科病院からの地域移行」や「障害者雇用の拡大」「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」などで精神障害を主とする法人の得意分野で地域に貢献します。

③基本的な業務の完全遂行

利用者の記録、個別支援計画とモニタリング、個別面談、関係機関との連携、報連相などの基礎的業務やワーカーホームの業務遂行マニュアルなどを確実に遂行します。

④働き方改革への対応

政府が唱えている働き方改革は、「働く方々が、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き

方を、自分で選択できるようにするための改革」と説明されています。その基本的背景には少子高齢化による労働力人口の減少があります。福祉職場では責任の重さと待遇との乖離もあります。

働き方改革の要点は①年次有給休暇の確実な取得、②時間外労働の上限規制(中小企業は二十年四月)、③正規雇用労働者と非正規雇用労働者の間の不合理な待遇差の禁止(中小企業は二十一年四月)、この三点です。

有給休暇と時間外労働の上限規制の点ではほとんど問題ありません。しかし雇用形態における待遇差については、大きな影響があるものと思っています。ワーカーホームも日本社会も、働き方改革は、業務内容や成果に基づく待遇差を明確にすることもありませんし、働き方改革で不可欠な生産性向上について労使ともに真剣に取り組み絶対の機会となつていきます。

働き方改革は、高齢者にも女性にももっと働いてもらおう、ということなんです。また、今年度予算は気前よく百兆円を越えました。どちらも無理があるように思えます。身の丈にあった働き方、消費の仕方がいいようです。

事業計画

本部拠点



【居住系事業所】

本部拠点（大網白里市）のうちホレブ寮とノバハイツ、だいちで行われているグループホームとヘルパーステーションを管轄しています。各事業所はこれまで利用者の年齢、支援量などによって機能分化してきましたが、いずれも高齢化と支援量の増加によって全体的な見直しを迫られています。

今後、日中活動系事業所と連携して一体的なサービスを展開するために、パンプキンハウスの相談機能を中心としながら各事業所の機能の見直しと質の向上を図ります。そ

のためには地域のニーズに応じて柔軟な受け入れができるよう職員に対する計画的な研修を行います。またノバハイツなど施設の老朽化に対応して改修工事を行います。

クロワールは新制度を利用して精神障害者を主な対象とする「日中サービス支援型」の共同生活援助事業に移行します。ファミリーユも訓練施設から永く暮らせる居住の場としての役割が中心となります。

五か所の共同住居で構成されている「だいち」ではプログラムや行事の整理、支援体制の再検討を行います。

シエスタ、ノバハイツ白里の短期入所は、ニーズがますます多様化しています。相談支援事業所との連携、情報の共有によって柔軟で安心して利用できる場を確保します。

定期的な利用している利用者の休息や旧交を温める機会も重要になってきました。

ヘルパーステーションそばでは、訪問件数が伸び悩んでいる中で如何に稼働率を上げることが重要課題です。事業継続の可否も検討します。（寺田）



【日中活動系事業所】

パンプキンハウス

（特定・一般・児童相談支援）

本部拠点のサービスはもちろん、地域の事業所を利用者のニーズや自立度の変化に合わせて、スムーズにサービス調整できるよう努めます。

パンプキンハウスの相談機能を中心に事業所間の連携を強化していきます。

ワークショップしらすと

（就労移行・就労継続支援B型・就労定着）

ホレブデイサービスセンターの自立訓練廃止に伴い、パンプキンハウスの建物をワークショップしらすとが

管理し、訓練・作業室、多目的室として活用します。ラウンジでは、喫茶ぼていろんを作業として引継ぎ、地域交流の場としてラウンジをご利用いただきたいと思います。

ホレブデイサービスセンター

（共生型、生活介護・通所介護）

高齢化する精神障害者の受け入れ体制を強化し、介護保険に移行しても利用できる事業所とし、昨年度から共生型サービスとして生活介護事業と通所介護事業を行っています。多くの方に知っていただけるよう営業活動に力を入れます。

山武ブリオ

（障害者就業・生活支援センター）

昨年度は中央省庁における障害者雇用の不適切な計上が大きなニュースになりました。企業から雇用している障害者の転職を懸念する声もあり、就労環境の整備や障害の理解を含めた現場の体制づくり、雇用における質の向上等、定着支援を行います。また、昨年度からの法定雇用率引き上げに対応した障害者雇用ゼロ企業を含む中小企業に対する支援や生活困窮者への就労促進、職場定着にも取り組んでまいります。

個別送迎

今まで、定期便（大網駅↓



ワーカーホーム間）の他に、個別送迎をワークショップしらすと、ホレブデイサービスセンターそれぞれで行っていましたが、今年度から個別送迎を一体的に行い、送迎の充実、効率化を図ります。

※今年度よりホレブデイサービスセンターを日中活動系に再編しました。（高木）

柏拠点



柏市では、二〇一七年度から開始した拠点の整備のうち、目標としていた四か所目の整備が完了し、二〇一九年度からは四か所体制での地域生活支援拠点の運営が開始します。ワーカーホームが実施する拠点としては、特に精神障害にまつわる諸問題、重度化・高齢化だけでなく、若年化や障害の多様化など、地域にとってより身近な問題を一緒に解決していく拠点として、地域の中での存在感を高めます。また、四拠点の設置になりますので、柏市の中でもより、中央地区に主眼を置いて、福祉だけでなくインフォーマルな資源

も巻き込み、つなぐ役割を果たしながら、障害があってもその人らしい生活を、ご自身で選択することが出来る地域づくりを目指します。

また、地域に必要とされる地域生活支援拠点を安定・継続して運営するためにも、拠点内においては、拡張による混乱からは脱し、安定した強い基盤を築く一年とします。特に、ページブル柏、みつばち訪問看護ステーション、すくすくにおいて予算管理を徹底し、収支バランスの適正化を図ります。将来に向けて必要な資源も、続けられなくては意味がありません。必要なサービスが必要な人に届くように、運営面でも知恵を絞って、チームの力で黒字化を目指します。

【三号館】たんぼぼセンター(相談支援)

柏市地域生活支援拠点に設置される相談支援事業所として、多様化する障害児者の地域生活を支えます。重度化・高齢化への対応や、地域交流の促進、精神障害者支援の専門性強化が重点課題です。特に、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築、ピア活動の推進に力を入れて地域づくりや専門性の強化に取り組みます。

エクラス(共同生活援助・短期入所)

様々なハンデを持つ仲間同士が、それぞれの力を生かし、助け合い、その人らしい生活が選択できるよう支援します。緊急保護や支援が濃厚に必要な機能は柏下、訓練的要素が強い機能は北柏を中心として展開します。みつばち訪問看護ステーション

精神科に特化した訪問看護を実施し、医療の側面での地域生活支援拠点の機能を強化します。経営基盤の安定と人材の定着はこれまでに引き続き大きな課題です。また、拠点内に設置された強みを生かし、地域に開かれた事例検討会など、地域を巻き込んだ専門性の強化を図ります。

【二号館】【ルミエール北柏】ページブル柏(就労継続支援B型)

利用者の力を活かし、おいしいパンをひとりでも多くの方に食べていただくことで、柏市全体の工賃向上に貢献します。食パンブームの風に乗って、ひとりでも多くの方にPAISIBLE食パンのファンになっていただくことを目指します。パンの製造販売だけでなく、広報や環境整備など、お客様に喜んでいただくための仕事をみんなで担い合いながら愛されるベーカーリー

づくりに取り組みます。すくすく(放課後等デイサービス)・てくてく(日中一時支援)

放課後等デイサービス・てくてく北柏(児童発達支援)・てくてく北柏(日中一時支援) 医療的ケアを必要とする児童も安全に、楽しく放課後や日中の時間を過ごすことができるよう、保育・教育の視点と、看護の視点を合わせた支援の形を実践します。今年には事業所を増やし、増える利用ニーズに応え、子ども達の成長に合わせた支援の充実を図ります。

【二号館】たんぼぼセンター(地域活動支援センターI型)

専門職配置による強みを活かし、他障害福祉サービスでは充足できない、安心していただける「居場所」を提供します。わたげワークス(就労移行・就労定着・就労継続支援B型) 就労支援事業における競争の激しい東葛地域のなかで、選ばれる就労支援事業所を目指します。カフェやココポツクル(利用者・職員向け食堂)など、魅力的な仕事を実践できる場と、寄り添い歩むワーカーホームの支援力を生かし、自分らしい働き方を見つけることを支援します。(大久保)



千葉拠点



のパンの売上げ向上、環境整備作業の整備場所の拡大、受注作業の多様目受注、工賃向上を図ります。また、就職者が多数できるように、就職支援を強化します。

鎌取相談支援センターは、相変わらずの大忙し。昨年度は、新規依頼を受けきれませんでした。地域移行支援では十三名の退院を果たしました。また、三年間千葉市のネットワーク作り、ピアサポーターの交流活動、地域への啓発活動、地域移行を行い、地域作りをしてきた「千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」を今年度も受託しました。十分な活動ができるように職員体制を強化したいと思います。

昨年度千葉拠点では、二つ目の共同住居「ポルタ」を菅田駅近くで開始しました。現在、「フジエール」を卒業した六名と新たに入居した四名が和氣あいあいと暮らしています。フジエールでは、今年度も長期入院者等の受け入れを行い、生活力向上に力を注ぎます。施設整備では「フジエール」の夜勤室改修工事を計画しており、話し易い相談室と落ち着く夜勤室を作ります。ワークショップ鎌取では、今年度もページャブル鎌取店

さて、私自身は法人を卒業し、この計画は次世代の職員たちに引き継ぐこととなります。千葉拠点が六年目を迎へ、新時代に突入し活動の幅が広がり、深まることを期待しています。みんな、ありがとう！後は任せたくぞ〜！ (三好)

の意を表し、併せてNPOウイズ理事長としてのご活躍をお祈りします。寺田)



長生拠点



長生圏域初のグループホーム「ぶらり」が四月にオープンしました。精神科病院から退院した方などがすでに入居されています。今年度は開設初年度なので、入居したての利用者と面談などを多く持ち、少しでも早く慣れてもらえるように努めたいと思います。そして自治会への参加や、近隣の住民とも交流が図れるパーベキュー大会などを企画し、地域に受け入れられるホームを目指します。

「長生地域生活支援センター」は新しく主任を配置して、相談支援専門員たちとチームとなって、増え続けている地域の相談の業務に対応します。精神科病院からの退院支援にも力を入れます。地域活動支援センター(憩いの場)は昨年同様、長生プリオと協働した在职者のプログラム、市内のレンタルスペースを利用した拡大プログラム(パーベキュー大会・クリスマス会)、また精神障害者によるメンタルサロンのプログラムなど、様々なプログラムを今年も計画しています。

「ワークショップ茂原(ページャブル茂原店)」は、工賃が月三万円を超える方が、昨年多い月には八人もいました。今年もその工賃額を維持したいと思います。そのために、なんとか茂原店のヒット商品のパンを開発しよう、日々試作と試食を繰り返しながら検討を続けています。茂原店のインスタグラムのパンの写真は好評で「いいね！」も沢山いただいているので是非見てください。また作業スペースが手狭になってきたので、今年は改修を行います。スペースを確保して、作業の種類を増やしたいと考えています。(山岡)



長生拠点「ぶらり」 (共同生活援助事業)開始

平成最後の年に「ぶらり」(共同生活援助事業)を四月一日から茂原市六ツ野で事業開始することになりました。

ぶらりの意味は、「ここから一歩ずつ」共に歩んでいく、茂原駅から近いこともあり「ぶらり途中下車」から名付けました。

ワーナーホームの事業で唯一、長生圏域に共同生活援助事業所がなかった為、今回の開所は期待と希望に満ち溢れる形になったと思います。

工期前、地域の方に「ワーナーホームの事業」や「ぶらり」の事を知ってもらう為、茂原市町保東部自治会に入会し行事等に参加しました。説明の時に、地域の方々から「頑張ってるね」とお言葉をいただき安心しました。

工期着手が、平成三十年九月から始まり平成三十一年三月十五日に引き渡しとなりました。引き渡された時は「出来上がって安心した」「これから出発する」の一言に尽きました。

ぶらりは定員十名で自治会の方々とパーベキューやゴミ

ゼロ運動等の行事に参加し地域と繋がっている事業所を作っていきます。

また、長生地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター長生プリオ、ワークシヨップ茂原の四事業所合同のプログラムも実施する予定です。

イキシアが発行される頃にはもうスタートを切っていると思いますが、「ぶらりが出来て良かった」と言われるようにしたいと思っています。

(森(敦))



すくすくの新規事業

二〇一九年度より以前ルミエール北柏で、すくすく北柏(児童発達・放課後等デイサービス)合わせて定員五名)とてくたく北柏(日中一時支援、定員三名)を開所することになりました。

これまで0歳児から卒後までの障害児者が同一のスペースで活動をしていました。放課後等デイサービスは発達支援を行う通所施設ですが、日中一時支援は保護者のレスパイトを重視した通所施設です。日中一時支援で預かりしていた就学前児童に対しても療育的な観点から、年齢や発達段階に合わせた関りや継続的な支援が必要であると考えました。さらに、働きたいと考えている保護者や医療依



存度が高いのに受給者証の取得が困難な児童がいるなど、地域のニーズは多様化しています。そのため、北柏を開所し多様なニーズに対応していきます。

今まですくすくが大切にしてきた、「保育・教育・看護の視点を合わせた支援」や「お友達のうち遊びに行くように楽しく過ごせる場所でありたい」というコンセプトはそのままに、すくすくのスタッフが積み重ねてきた支援をしっかりと個別支援計画に明記し、継続的に支援・療育につなげていきます。また、本人への発達支援に加え、医ケアママサロンを開催し家族支援にも力を入れていきたいと考えています。

乳幼児期は、成人に比べ成長や発達が著しい時期です。周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、適切な環境や活動を提供することは、心身ともに健全な発達を促すことができますと考えます。すくすく北柏においての関りが、絶え間ない支援につながっていると確信しています。(前澤)

お知らせ

ホレブデイサービスセンターの生活訓練は二〇一〇年四月に、事業を開始。地域生活を送るための様々な訓練を利用者と一緒に行ってきました。その訓練内容は多岐に渡り買物の仕方から、バスや電車など交通機関の使い方。生まれ育った町でもう一度暮らしたいという希望に合わせ、物件探しから引っ越しまでを利用者と共に行いました。しかし、通所での利用者を増やす事が出来ず二〇一八年度を持って事業を終了する事となりました。利用者の方は、次なるステップを図るなど他事業所への移行も完了しました。

引き続き、ホレブデイサービスセンターは、共生型生活介護・通所介護事業所として運営いたしますので、よろしくお願いいたします。

(古市)



2019年4月 主任昇格

すくすく・てくてく
前澤 直基



長生地域生活支援センター
橋本 義隆



この度、すくすくの主任管理者になりました。ワナーホームには平成29年9月に入職いたしました。趣味はイワナ釣りや山菜狩りなどの山遊びです。人生において大切にしていることは、自然や人への感謝です。前職は精神科の病院に勤務していました。ですから、小児医療の知識はほとんどなく、この1年半毎日が勉強でした。すくすくのほとんどが重症心身障害児と呼ばれる子供たちです。疾病の理解や発達段階に合わせた支援、地域や小児医療についての制度や仕組みを日々学んでいます。皆さんに支えられてこれまでやってこれました。今年度の抱負は、子どもたちの絶え間ない支援が継続できるように、すくすくを存続させることです。安全に配慮しつつ、しっかりと業績を上げていきたいと思っています。

この度、新たに主任に就任しました。今年度、新卒で入職してから9年目となり、中堅職員真っ只中を迎えています。

主任となるにあたり、抱負としては後輩職員のフォローと指導を行い、よりよい支援に繋げるということです。法人の理念や今まで私が経験から学んだことなどを後輩たちへ繋げると共に、良き相談相手としてチーム作りを行っていきたいと思います。

主任としてまだまだ頼りないところもあるとは思いますが、責任とやりがいを持ちより一層精進してまいります。



わたげワークス
菅野 健一



みつばち訪問
看護ステーション
土屋 光紀



すくすく北柏・
てくてく北柏
渡部 真弓

柏拠点



クロワール
相京 良明



山武プリオ
杉本リリアーナ

本部拠点

リーダー昇格



みつばち訪問看護ステーションは平成二十五年九月に柏市地域生活支援拠点として事業を開始しました。精神障害者の看護に特化した訪問ステーションとして、障害者のその人らしい生活を実現できるように生活の場に伺い、希望、目標に向けて一緒に考え前に進んでいけるように必要な看護提供をしています。これまで六年の歴史がありながらスタッフ定着が困難でしたが、昨年十二月より四名のスタッフで安定して訪問に回ることでできるようになりました。チームとしてはまだまだ未熟ではありますが、全員が精神科病棟経験者で病院の中では限界を感じていた中、地域で本人に寄り添う看護を実践したいという思いを一つに取り組んでいます。

わーなー口誌 《みつばち訪問看護ステーション》



ワナーホームが行う専門性の高い訪問看護への信頼や認知を徐々に得て、関係機関との連携も密になってきました。一つ一つの訪問依頼に顔合わせを行いながら丁寧に向き合い関わる中で契約に繋がっています。利用者の目標をもとに看護計画を立案し、目標に向けてある利用者は引きこもりから散歩に出るようになり、ある利用者は当法人のわたげで仕事を始めたりとそれぞれの目標に向けて一歩ずつ歩みを進めています。写真は利用者の散歩同行の一場面です。今年度は、地域の現場で行ってきた精神看護そして地域との連携を形として示せるように、事例検討会や看護研究を行い地域に発信していきたいと考えています。

(土屋(光))

所内研修「研究発表」

優秀賞

柏拠点

柏拠点二号館は、重症心身障害児者放課後等デイサービス「すくすく」・日中一時支援「てくてく」と、就労継続支援B型「ペジール柏」が、事務所他を共有して事業を行っています。このため、ペジール柏での作業中に、こどもたちの声が聞こえてきたり、ペジール柏の利用者が、すくすくのキッチンで食器を洗ったりと、お互いの気配を感じ、日常的に関わりながら日々を過ごしています。

作業中にこどもが横を通り過ぎるのはどうか、という意見も当初はありましたが、そのうちそういうものだ、気にならなくなりました。また、利用者を含め互いに遠慮がちなわたしたちも、何かあると声を掛けあうようになっていました。そこで研究発表を機にわたしたちは、この異なる事業所間の交流により、どのような変化が生まれて

いるか調べてみることにしました。

今回の研究は、柏拠点二号館開所から一年数か月という短い期間の変化についてであり、調査対象者やアンケート実施回数も限られているため、研究としてはまだまだ未熟なものです。しかし、互いの存在を感じることから交流が始まり、影響を与え合うという、当たり前であるが故に忘れがちになっている大切なことを再認識する良い機会となりました。(森本)

貢献賞

パンフキンハウス 長生地域生活支援センター

この研究を行うきっかけは、日中活動に行くことが出来ない利用者、地域活動支援センターに足を運べないと感じている利用者の居場所はないだろうか？仕事をしている人、通所している人の週末の居場所はどんなところがあるのか？との意見からスタートしました。

調査をしていく中で、地域

の活動を半数以上知らない人がいる一方、活動を知っている人の七割が参加していることがわかりました。

どのような条件なら参加をするかという質問に対しては「誰かと一緒なら」と言う回答が多くありました。

調査当初は、資源マップを作ることで活動を広げられたいらと思っていました。結果「気軽に・身近に」参加できるイベントや場所を求めている人が多いこと、家族や友人、職員など、身近な誰かが関わることで外出の機会が増えるという結論に至りました。

この研究タイトルでもある「あったらいいなをカタチに」から、①共有スペースに地域の情報を提供する。②既存のイベントで人と人が繋がる機会を作り、身近な存在を増やす。趣味が欲しい人や友達が欲しい人を集めてイベントを開催するなど、人と人を結びつけることをカタチにしていきたいと思っています。

(大東)

定期便のバスが
新しくなりました！

車両の老朽化に伴い、新車両を購入しました。今まで使用していたバスは、毎日、大網駅とワーナーホーム間を四往復で百キロ近く走行し、また行事で出かける等、たくさん思い出を作りながら十年間使用し、二十万キロ走ってくれました。引き渡しの時は、新車両になる嬉しさと、無くなったしまじ寂しさの色々な気持ちが入り交ざった中で、新車両入れ替えでした。

新車両は、平成三十年(公財)中央競馬馬主社会福祉財団施設整備等助成事業の助成を受け、TOYOTAコースターが平成三十年十二月二十六日に納車しました。これから新しい思い出を皆で作って、大切に使用していきます。(星野)



「NHK歳末すけあい」
サイクルポート完成

長年愛用していた手作りの木造サイクルポートが風雨に打たれるなど老朽化が進んでいました。手作りのため愛着があったので、修理しながら使用してきました。しかし、自転車の台数が増えてきたこともあり新しく建てる事にしました。

新しく建てるにあたり平成三十年「NHK歳末すけあい」の助成金を受託することができました。

ワーナーホームでは、赤い羽根共同募金で多くの備品を購入し利用者の生活にとても役立っています。今回も新しくサイクルポートを建てたことで、利用者からは「広くなって良かった」「自転車が出しやすい」との感想が聞かれました。新しく建てることの決断をして良かったと思います。

この貴重な募金でサイクルポートを建てる事が出来て大変嬉しく思い、ずっと大切に使用します。ありがとうございます。(吉野)



ワナーホームの主な動き

《一月》

- ・初詣「白子神社」／ホレブデイサービスマスター
- ・初詣「千葉厄除け不動尊」／ホレブ・クロワール・ファミーユ



- ・初詣「笠森観音」／ワークショップしらさと
- ・初詣「千葉厄除け不動尊」／フジエール



- ・初詣・新年会「橘樹神社」／だいち



《二月》

- ・初詣・新年会「長福寿寺・はま寿司」／長生地域生活支援センター
- ・ソフトバレー大会



- ・ゲーム大会／フジエール
- ・平成三十年度障害者就労促進チャレンジ事業障害者向け企業見学会「カンダコーポレーション株式会社東金センター」／山武プリオ
- ・障害者雇用促進就職面接会「ハローワーク茂原・いすみ」／長生プリオ
- ・理事会

《三月》

- ・研究発表
- ・パラスポーツ体験会「横芝光町体育館」／ワークショップしらさと
- ・節分／フジエール
- ・節分「恵方巻き作り・豆まき」／長生地域生活支援センター
- ・外食ツアー／長生地域生活支援センター
- ・平成三十年度障害者就労促進チャレンジ事業企業見学会「パシフィックゴルフマナー

ジメント株式会社 丸の内倶楽部」／長生プリオ

《四月》

- ・花見「ドライブ「茂原方面」／ホレブデイサービスマスター
- ・一年の振り返り
- ・平成三十年度第四回就労者ミーティング（交流会）／山武プリオ



- ・食事会「ビッグボーイ」／フジエール
- ・イチゴ狩り「成東」／だいち
- ・外出プログラム「東京ドイツ村」／長生地域生活支援センター
- ・内覧会／ぶらり
- ・長生郡市総合支援協議会就労作業部会／長生プリオ
- ・理事会
- ・入社式・新人職員研修
- ・全体会



- ・花見「昭和の森」／だいち
- ・外出プログラム「ちはら台ユニモ」／長生地域生活支援センター

イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回（一月・五月・九月）発行されます。

〈会費〉
賛助会員 三,〇〇〇円（年）
正会員 一〇,〇〇〇円（年）

編集後記

少しずつ春めいて来ましたが、まだ寒い日があったり、どこかでは雪が降ったりと忙しい日が続いていると思います。そんな中ですが、ホレブ寮中庭のソメイヨシノが満開になりました！今年度もワナーホームの出来事をお伝えしていきますのでよろしく願います。（A）

発行所 **ワナーホーム
イキシア会**

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL <http://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎